場所　宮崎県北諸県郡三股町

面積　0.64ha



活動目的

自然環境を維持し生物多様性、自然の大切さを次の世代に繋いでいく。様々な体験や環境教育を行うことで不登校や課題を持つ子供たちが緩やかに仲間や地域との繋がり、協働を通し自立への足がかりを学び、共存についての意識を高める。

サイト概要

三股町は都城盆地の東南に位置し、ハート形をした町。当サイトは町の中心部から2㎞ほど離れた所で、標高202mのやや高台に位置する。盆地特有の気候である寒暖差が大きく、深い霧の発生も多くみられる。また、高校生の総合学習の場、近隣の保育所、放課後デイサービスの体験や遊び場、地域住民の憩いの場となっている。サイト内は自由に散策できるように開放し一部に森に関心を持ってもらうきっかけづくりのために自主事業でツリーハウス等も設置し多世代の憩いの場となっている。サイト内にある森、蘚苔類、竹林や山林に囲まれた体験畑では、里山の季節の変化を感じながら子供が遊びを通して里山自然と触れ合う機会を与えている。

土地利用の変遷

所有者の高齢化により耕作放棄地と森の間にある里山の保全に苦慮し、作業内容等から年々対応が困難となり荒廃傾向であったところ、里山、空き家、畑を一つの場所として不登校支援の体験活動の場所として借りたいと社会福祉協議会及び民間団体から要請あり、所有者も社会貢献であればと承諾。地域住民や社会福祉協議会、民間団体、不登校当事者の協力によって整備 、活動できる場所として再生された。現在、適宜管理を行いながら里山の環境が保たれている。

サイト周辺の環境

サイト周囲は以前は棚田が続く米づくりの盛んな場所であったが、現在は放置状態となり、雑木で覆われ、農業用ため池は利用がなくなり葦や雑草に覆われ、水面を見る事はできなくなっている。源流からの流れは絶えずホタル類やトンボ類、魚類、カエル類等は多くみられている。

アピールポイント

①景観　標高202mのやや高台にあり都城盆地が一望でき、高千穂の峰を最高峰とする霧島連山を望むことができ、里山特有の風と空気を感じる事ができる。②穏やかな居場所　地域の課題でもある不登校支援の場所として活動を開始し、継続。自然環境を利用し地域住民の支援も得て様々な世代の体験や癒しの場となっている。③地域住民の意識が高く、地域資源を生かした創作活動や森の伝説など、里山文化を地域の次世代への伝承に努めている。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

三股町の片隅にある谷間の里山であり、里山の自然体験ができるように、耕作放棄地となっていた場所を活動できるように整備し、サイト内には、竹林、スギ・ヒノキ林の山林に囲まれた畑が存在する。四季に応じて異なる鳥類の鳴き声が聞こえ、森や畑では、様々な昆虫やヘビ類が確認され、耕作放棄された棚田は、湧水が存在しており湿地化し、両生類やトンボ類が飛び交う。季節になると夜はホタル類が舞う。

【主な植生】

畑、クリ林、スギ林、竹林、照葉樹林

【確認された主な動植物など】

【植物】
ハコベ、ミョウガ、ススキ、スギ、ヒノキ、クリ、アラカシ、ツブラジイ、キバナチゴユリ、クモラン、カンザンチク、ミソナオシ、タイワンアキグミ、サツマイナモリ等

【昆虫】
トンボ類（ミヤマアカネ等）、カメムシ類（アオクサカメムシ等）、バッタ類（ショウリョウバッタ等）、カマキリ類（オオカマキリ等）、ナナフシ類（エダナナフシ等）、カブトムシ、ノコギリクワガタ、カミキリムシ類（ニセノコギリカミキリ等）

【哺乳類】
イノシシ、アナグマ、ノウサギ、タヌキ等

【鳥類】
ホトトギス、キジバト、アオサギ、アオバズク、アカショウビン、アオゲラ、モズ、ハシボソカラス等



写真の説明：クモラン



写真の説明：サツマイナモリ

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

保育園やフリースクール、放課後デイ(養育)・高校の野外授業にも活用される子供達の自然体験の場である。活動では畑の農産物作りや森ゾーンにある広場やツリーハウスを活用して自然体験を行っている。特に力を注いでいるのは、不登校の生徒を受け入れ、自然体験する中で、心に伴走し登校復帰と復学できた子をサポートする事であり、申請エリアの豊かな里山自然は、その活動に大きな効果をもたらしている。

【主な植生】

畑、クリ畑、スギ林、竹林、照葉樹林

【確認された主な動植物など】

【植物】
ハコベ、ミョウガ、ススキ、スギ、ヒノキ、クリ、アラカシ、ツブラジイ、キバナチゴユリ、クモラン、カンザンチク、ミソナオシ、タイワンアキグミ、サツマイナモリ等
【昆虫】
カメムシ類（アオクサカメムシ等）、バッタ類（ショウリョウバッタ等）、カマキリ類（オオカマキリ等）、ナナフシ類（エダナナフシ等）、カブトムシ、ノコギリクワガタ、カミキリムシ類（ニセノコギリカミキリ等）
【哺乳類】
イノシシ、アナグマ、ノウサギ、タヌキ等
【鳥類】
ホトトギス、キジバト、アオサギ、アオバズク、アカショウビン、アオゲラ、モズ、ハシボソカラス等



写真の説明：高校生への農業指導



写真の説明：保育園のジャガ芋ほり後のツリーハウス体験

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容

以下の4つのゾーンで活動を行う。
①森ゾーン　森の木こり活動
樹木医の指導の下、老木化した木（栗・杉）を伐採し新しく植林（広葉樹や落葉樹等）伐採等を見ることで、森の循環について学ぶ。
植林(20本程度予定)　希少植物の生息地拡大を図るために日当たり等を配慮し草刈りを行う。対象：住民、小中学生、高校生。
②畑ゾーン
通年を通し季節の野菜の栽培体験を行う。高校生は探求実習のために種から栽培し　収穫までを体験する。農薬は利用しない。不揃いやでき過ぎた野菜類は、子ども食堂等で使い食品ロスを予防する。
③竹山ゾーン
竹を伐採。地域資源として竹利用の創作活動を計画。指導の下、竹灯籠作成を行う。対象を高校生として、下絵から完成まで実施。道具の使い方、竹の性質等指導を受ける。竹山の管理はスタッフと住民の協力で２回/年ほど、手入れを実施する。
④用水路ゾーン（申請の範囲外）
子ども達にとっては一番の遊び場であるため、見守りを行う。季節によって水量が大きく変化するため、雑木を取り除く作業、周辺の草刈りを行う等、環境を整え安全を図る。
高校生の課外授業での自然体験目的の施設利用が回数も人数も増えており支援体制を整える必要性がある。（活動補助・暑さ等気象状況の変化への配慮）

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】
植物　昆虫　両生類　鳥類

【モニタリング場所】
森ゾーン、畑ゾーン、竹山ゾーン（申請の範囲外であるが用水路ゾーンでもモニタリングを実施）

【モニタリング手法】
専門家と学生等に協力を仰ぎ、観察・保護方法等の助言を受ける。
昆虫類：ピットフォールトラップ法、見取り、スイピング
鳥類：定点調査　植物：ラインセンサス

【モニタリングの実施時期及び頻度】
実施時期については2024年初年度であり現状把握のため6か月とする。以降は年1回とする。専門家の指導によって特別に実施することもある。

【モニタリング実施体制】
初回調査を実施した有識者の協力をえて植物、昆虫、両生類、鳥類の調査を実施する。調査にはスタッフが同行し、現状の確認と管理の助言を受ける。できるだけ調査日程等を学生の課外授業に合わせ、調査や助言等をともに受けることも有意義であると考える。